

「HSK 季刊わたぼうし」 第40号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1996年(平成8年)5月1日 '96 春号

第40号のテーマ 私とパソコン I

ひとり旅 演歌の匂いする港

作：比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの意見を出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ・私とパソコン I

生活の楽しみ方について 趣味と実益を兼ねて

地域住民・肢体障害

私の趣味はパソコン通信をすることです。この病気になって一生の思い出が出来ました。それは、平成元年に再発してからワープロを買い換えました。そうしたらワープロでパソコン通信ができることを知りました。

ワープロもろくに打つことが出来ない私が、パソコン通信が出来るか心配でした。メーカーのサービスの人と一身同体で勉強しました。そうしたら北陸3県の通信ネットにアクセスできるようになり、平成3年のあるとき、石川県作業療法士会の先生から私の通院している公立能登総合病院のOTの先生に、七尾にパソコン通信をしている人がいたら紹介してくれるように聞かれ、「通信しています。」返事をしました。そうしたら、「金沢市総合体育館に行ってくれ。」と言われましたが、最初は何が何だかわかりませんでした。

係員の説明でわかったのが、平成3年の全国身体障害者スポーツ大会のリハーサル大会でした。パソコン通信で競技結果を入力して、石川県へ応援に来れない方や施設に入っている人に、友人の競技結果を入力して全国の人に見てもらおうという、やりがいのあることでした。

全国で初めての試みだと聞いて、それから6ヶ月間、月2回、七尾から金沢市西念のNTTネットワークセンターへ講習会に親戚の人や娘に無理を言って、よく半年も講習会に通ったと思いましたが、平成3年10月、第27回全国身体障害者スポーツ大会、「ほほえみの石川大会」のパソコン通信に参加できたこと、私が脳卒中になって左半身麻痺で参加できたことが私の一生の思い出となっています。

また、パソコン通信で富山の障害者と友だちになって、富山の障害者共同作業所「富山生きる場センター」の代表の方から「ワープロで文書打ちの仕事をしてみませんか」という手紙をもらい、現在も毎月2万字ほど打っています。工賃は一文字40銭で、2万字打っても8千円にしかありませんが、お金ではありません。

現在、打っている文書は富山や石川県関係の文書なので、原稿を見ながら打っていますが。パソコン通信で送信すれば「富山生きる場センター」で校正して、富山の桂書房さんに製本して、自分の打った文書が本になるので、今は出版を楽しみにしています。

ほほえみの石川大会終了後、参加有志で平成4年に「ほほえみの会」を結成して、現在も会員でいろいろな行事を企画して、私も参加して楽しんでいます。

以前は趣味はなかったのです。今は暇さえあれば、ワープロを打ったりしてパソコン通信を楽しんでいます。皆さんも何か趣味を持てば生活が楽しいと思います。

私は以前は何も趣味がありませんでしたので、家にいても、母や妻にあたっていました。現在は気長にいます。積極的になり、自分でも変わったなあと思っています。以上。

私とパソコン

地域住民・病院理学療法士

パソコンを使い始めて8年が経ちました。最初買ったのはエプソンのPC-286V-STDとサンヨーのディスプレイ、エプソンのプリンターで合計30万、CPUは80286というもので、今では貴重品にもならない品物でした。最初に使ったソフトは「一太郎Ver.3」、表計算ソフトは「Lotus1232.1J」、データベースは「ザ・カード2」というものを使用しました。もちろん全てフロッピーベースです。その頃はすべてシステムディスク一枚で動いたんですよ。OSはもちろんMS-DOSというもので、今考えてみるとちょうどMS-DOSが出始めた頃だったようです。それ以前の人たちはBASICのようなプログラムを作らなくてはならないようなものは、ちょっと苦手なので今までのように使いこなせたかどうかわかりません。

はじめに使ったのは「一太郎」というワープロソフトですが、一番凝ったのはデータベースである「ザ・カード2」でした。これも見方によってはプログラムのようなものを作らなくてはならなかったのでもっと大変でしたが、その頃趣味にしていたカセットテープの管理をするという目的に買ったわけですから、まあそれなりに勉強になりました。その後もソフトのバージョンは上がるし、パソコンの機種もNECに変わりましたが、何とか今でも役に立っています。こういうところがパソコンのすごいところですね。過去のデータが無駄にならないのですから。一番大変なのは入力ですが、一度入力したデータはどこにでも使い回せるのでそれなりに便利です。書類にすると追加したり、形式を変えたりした時に、使っていくうちに全然違う書類になってしまうことになるものですが、データベースにすればいくらかでもレイアウトが変更できます。

こうなってくると仕事にもだんだん使いたいということになるわけですが、なかなかそうはいきません。私の仕事はパソコンを使うことがメインではないので、いかに使いやすく構成できるかがポイントになります。そうするとデータベースの場合はMS-DOSではちょっとつらい。残念ながら未だに理想のシステムを作ることが出来ないのが現状です。しかし、最近ではウィンドウズやマッキントッシュが使えるようになってきたので、何とか使って行かればと考えています。

さっきのカセットテープの管理も現在ではマッキントッシュでやっています。マッキントッシュはウィンドウズでもそうですが、たいいていの操作がマウスで行えるので使いやすくなっています。初心者には良いパソコンかも知れません。しかし、ファイルやフォルダの管理などMS-DOSとは管理方法が違うので注意が必要です。気をつけてください。

私とパソコン

地域住民・肢体障害

私は交通事故で左半身麻痺となり、現在は病氣療養中ですが、以前はコンピューター会社でプログラムをしていました。もちろん、コンピューターとパソコンとは大違いですが、諸事情で退職後もキーボードを触っていたと思います。

そんなわけで事故後のリハビリにもワープロを利用し、もちろん仕事にはパソコンを一

切使用していなかったのに、実際に触ったのは再就職のための訓練校でのNEC98シリーズの一太郎(ワープロソフト)、ロータス(表計算ソフト)でした。

業務用編集用のエディタとしていろいろ使っていたつもりでしたが、なかでも「一太郎」は最も使いやすいものでした。

私が現在、最も興味があるのはパソコン通信です。電話回線を介して行うのですが、工事費や電気料、電話料、その他経費がかかります。

相手が見えないのと動き回らなくてもいいことなどあってか、障害者がよく利用していると聞きます。かえってそれで敬遠する人もいるようですが。

私とパソコン

地域住民・教会牧師

人とコンピュータと似ている部分が多い。確かに便利になり、ある程度のことは人以上の仕事こなす。おそろしい程である。誰がこんなものを発明したのかとさえ思い、改めて、人の知恵に驚かされる。

コンピュータは入力した情報、能力しかそれを引き出し活用することは出来ない。私も一台持つはめになったが、まずは何を入力し、情報を入れるかであり、あとは本当に便利である。しかし、この種のものにも、まちがった情報を入力し、悪用される目的で使われることもしばしばである。

人も(人の頭脳、人の心)小さなコンピュータである。何を見、何を聞き、何を読むかが人生に本当に大切である。いろいろな情報があるこの世界、いたずらに欲や利益だけに追求する情報もある。さらにコンピュータを何の目的で使用するかがもっと大切だと思う。何の仕事のために操作するのか、要は使う目的、使う人の方針である。何のために人生を使うのか、人の使命と言うが、まさに使命とは文字通り命を使うと書くが、では何のために使うかである。

考えて見れば、私たち人間こそ、この頭脳こそコンピュータ以上に素晴らしいものではないか。目、手などの構造を見ても驚くばかりである。誰がこんなものを造ったのかとパソコンさえ思う。まして人は誰かの、否創造主なる神の傑作ではないだろうか。そう自分を受け止められたら、人生観が変わってくる。星野富弘著『風の旅』のあとがきで「草花、人の愛、神のみわざ、気がついてみたら私のまわりには驚くことばかりだったのです。私もこんなに素晴らしい者たちと同じように生かされているんだと気づかされたのです。」

私たちの人生に欠かせない情報を入力しなければならない。そして何のために使用するのか。パソコンで操作する人が、人の目的が問われる。私たちを造られた神の目的に合わせて生きるのが、命を使うのが、真の生きることの幸いであることを星野富弘さんは教えてくれていると思う。

私は、現在、筋ジストロフィーという病気のために車いすの生活です。この状態になってからは指先だけが割と元気で、今のパソコンは4～5年前に買ってもらいました。この時はゲームぐらいしかやっていませんでした。その後、「ほほえみの石川大会」で競技結果の入力ボランティアをやった関係上パソコン通信を始めました。このようにしてパソコンと出会ったわけですが、私にとってパソコンは単なる道具ではなく、自分の体の一部のような気がします。なぜなら私は主にパソコンをパソコン通信に使っていますが、それによって普段の体の不自由な状態から全く自由な状態になることができます。少なくともパソコンネットワークに接続している間は、日本全国どこにいる人とでもコミュニケーションする事が出来ます。さらに、今話題のインターネットなどだと世界中と仲良くなれます。

パソコン通信以外でも私とパソコンは切っても切り離せません。パソコン通信以外にはMIDIで音楽を聴いたりパソコンで絵を描いたりしています。なぜだか解りませんがパソコンが大好きでいろいろなことをしています。

いろんな事をやっているうちに就職しなければいけない年齢になってしまいました。いろいろ考えた結果パソコンのできる仕事ということでCADの勉強をはじめました。CADの勉強は今年の2月に終わります、この文章を読んだ人で何かCADの仕事のある人よろしく願います。仕事はできれば自宅でしたいと思っています。

私とパソコン「暮らしの中に活用」

地域住民・肢体障害

パソコンといえば、最近ではよく売れていると聞きますが、ちょっと前までは一般的でないものだったと思います。私もパソコンコンプレックスがあったのでワープロからなかなか離れることができなかつた。それで数台のワープロを買い換えるという事を繰り返し、今から考えると高い出費をしたものだと後悔しています。

さて、パソコンは私の暮らしの中に入り込んでいます。デスクトップのパソコンの一台は24時間電源が入っていてFAXモデムをつないでいます。パソコンで文書や地図や絵を描いて直接、国内をはじめ国外にFAXしています。また受信もパソコンのハードディスクにそのまま保存されるので、データベースとして活用しています。さらに、FAX受信したものを文字認識ソフトを使ってテキストに変換したり、テキストファイルを読み上げるものを使って文章確認をする。目で読むことのわずらわしさをはぶけます。

また、WINDOWSのカードファイルで電話帳をつくり、そこから電話をかけていますので、第2電電などに加入していると長い番号を押さなくても大丈夫。さらに、昔の黒電話も活用しています。県外の人たちとは大手のパソコンネット通信でメールを使ってやり取りするので郵便より安く済むことが多い。さらに毎日の活用としてスケジュールソフトを使い時間がくればチャイムと文字の表示などで知らせるなど便利です。

もう一台のパソコンはビデオやスキャナ、CD-ROMなどでパソコンに呼び込みながら3分ぐらいのビデオ観賞用のものを作ったり、写真を使ってトトロのアニメと写真を合

成し、それをカラープリンターで葉書に印刷したりと趣味の分野でも結構活用しています。自分の名刺もカラープリンターでつくっています。カラフルだといわれて好評です。

こうした活用は、パソコンを仕事で文字を打つだけとか計算をさせるものだけのものにしておくのはもったいないと思います。いろいろとしたいがソフトが高いかかどういふソフトか買ってみたいとわからないという人たちも多いと思います。しかし、パソコン雑誌などでフリーソフト(料金がらない)やシェアウェア(いくらか支払う)の紹介などがなされていますので、それを参考にしてパソコン通信でダウンロードしてみるのもよいのではないだろうか。結構市販ソフトよりもよいものがあります。

日常的にパソコンを身近なものに活用していくには、何をしたいかという事もあります。が、どういうソフトがあるのかという情報も必要なのではないだろうか。いろいろなソフトを作っておられるので、そのいくつかの組み合わせをしながら活用すると便利に使うことができます。

私とパソコン

地域住民・公務員

小学生の頃から、SF(化学空想物語)が好きで、はやくからコンピュータに興味がありました。

手塚治さんのマンガから始まり、星新一さんや筒井康隆さんの小説、宮崎駿さんのアニメなど、今でいう「おたく」のはしりでしょうか。(今は「パソコンおたく」かな?)
クラブ活動は科学部に入りましたが、あいにく不器用で、とくにハンダ付が苦手でした。

コンピュータをつくるのはちょっと無理かな・・・と、もっぱら使うほう、プログラミングに興味がありました。

中学生の頃、日本でも「パソコン」というものが発売されました。今のパソコンから見ると性能は雲泥の差ですが、価格はすごく高かったので、とても買えるようなものではありません。

アルバイトに精を出して買う友だちもいましたが、「ポケコン」(プログラム機能を持つ電卓)でがまんする人も多かったようです。

私もこずかいを貯めて、ついに「ハンドヘルド」といわれていた40行ほど表示できる携帯型パソコンを買いました。

英数字とカタカナ、簡単な記号しか表示できませんでしたが、夢のパソコン。自分の作ったプログラムが動くのはよろこびでした。パソコンとつないで4色ボールペンで小さな図形を描く「プロッタ」という機械も買いました。

高校に入ってから、クラブもワンダーフォーゲル部という山登りやサイクリングをしたり、ユースホステルに泊まって旅行したりとパソコンをいじらなくなりました。

再びパソコンにさわようになったのは大学での卒業論文です。「エムデン種ガチョウの成長を成長理論曲線ゴンベルツ曲線ロジステック曲線にあてはめる」しといったなかみで、これにパソコンを使いました。

といってもプログラムは先生がつくったもので、私はデータをとって入力しただけで、

いまだにこの成長理論曲線というのをうまく説明できないのです。

就職してから、仕事場にパソコンが導入されることになりました。ちょうど近所の職業訓練校で、夜間のパソコン教室があるのでこないかと誘いを受け、職場の若手と仕事の後、習いに行きました。

「一太郎」や「花子」などのソフトがではじめたころでした。昔いじったパソコンとは雲泥の差です。これはスゴイ!と単に欲しくなりました。

今では、個人でパソコンを持っていますし、仕事場でもワークステーションというパソコンより一つ上のコンピュータを使っています。「層別二段確率比例抽出法による標本調査」を担当しているのですが、すべてコンピュータ処理で、この計算を説明せよといわれても、うまくできません。

私とパソコンは趣味でも仕事でもつきあうことになってしまいました。しかし、データを入れると答えを出す。それだけではコンピュータは面白くありません。

コンピュータは私たちに快適な生活をもたらすものでなければならない。そのためにも高齢者や障害者を排除するようなコンピュータ社会にはしてはいけません。

日本中の自動車が全部動いたら道路がパンクしてしまうほど自動車があふれているのにその恩恵を受けない「移動制約者」といわれる人々がいる。いまの自動車社会は喜劇であり悲劇なのです。

コンピュータはますます進歩していますが、これからがだいじになると思います。

福祉関係パソコンソフトの紹介

このコーナーでは、身障者向きのパソコンソフトを紹介していきたいと思います。皆さんの情報をお待ちしています。

音声化ソフト・WER

突然ですが、皆さんは「オフ書きツール」というものをご存じでしょうか？これはパソコン通信などの書き込みをオフライン(回線を切った状態)で書くのを支援してくれるソフトのことです。

さて、こういったオフ書きツールは何種類か存在するのですが、残念ながら私のように視覚に障害のあるもので、音声合成装置を使って画面を読んでいるものにとって使いやすいオフ書きツールというものは私の知っている限りではほとんどありませんでした。

ところが今回、「音声かソフト対応版『WER』」というソフトを作っていただくことができました。このソフトはもともと趣味で作られたソフトで、シェアウェアとして一般に公開されているソフトです。

ところがこのソフトはもともとは音声化ソフトでは使いにくかったのですが、今回、音声化ソフトに対応していただくことになりました。

このソフトの特徴としては、ホストプログラム定期ファイルをひとたび書けばどんなホストプログラムにも対応可能といったとても便利なものです。またこのソフトはログファイルに記録されているファイルを一つずつ順番に並べ替えて画面に出力し、またそれに対

するレスポンス(書き込みに対する返事)をエディタで書けばマクロまで組んでしまうといったソフトです。また、このソフトは自動運転マクロをひとたび組んでしまえば、簡単な操作でその書き込みをマクロに組み込み、また、このWERの実行中に通信ソフトを起動してネットへアクセスもできるといったソフトです。もちろんマクロを使わなくても、テキストファイルにネットの書き込みコマンドを埋め込んだテキストファイルを作ることができます。

さらに、視覚障害者対応版WERは以下のような特徴があります。

(1)メッセージヘッダの簡略化

普通にネットから出力されるログには、書き込み者のID、日付、時間などが記述されています。しかしながらこれはホストプログラムによってヘッダの形式が違い、また、ネットから出力されるヘッダの形式は、飾り文字、ヘッダを区切る線などが含まれており、必ずしも音声化ソフトで読みやすいものとはいえません。

WERではこのメッセージヘッダを整理し、音声化ソフトで読みやすい形式に変換して出力します。

(2)ログファイル中の引用行の整理機能

通信の書き込みでは、各行の頭に“>”などの引用マークを付け、他の人の書いた文章を引用することがあります。これを音声化ソフトで読み上げた場合、行頭にくるたびに“>”という文字が出力され、大変聞きづらくなります。またこのログを音声でただ読ませていますと、引用行と引用行の間にその引用に対するレスポンスがあった場合、どこまでが引用された行で、どこからがそのレスポンスなのか分かりにくくなる場合があります。WERでは、これらの引用マークを取り除き、また引用されている行については「引用開始」「引用終了」で囲むようになっています。

(3)WERで変換されたログのファイル出力

こうして音声化ソフトで読みやすい形式に変換されたログファイルをテキストファイルに書き出すことができます。これにより、たとえばこのファイルをTYPEコマンドなどで出力し音声で聞いたり、このファイルを自動点訳ソフトにかけて点字に変換して点字プリンターで打ち出して読むなどといったことが可能かと思われれます。

余談ですが、普通にネットから出力されるファイルをそのまま点字に変換して印刷しますと、メッセージヘッダなどがそのまま点字に変換され、また引用マークも付いたまま点字になりますので、大変読みにくいと思います。そこでこのWERで出力したファイルを点字にしますと、書き込み者、日付、時間などが文章して出力されますので、点字でも読みやすいかと思ひます。とてこの機能を付けていただいたわけですが、実は私は点字プリンターなどを持っていません。(苦笑)、この機能はまだ不十分な点があるかと思ひます。またWERで出力されたファイルをそのまま点字印刷しても、はたして読みやすい点字になるかどうか疑問です。たとえばログファイルの中には顔文字()や表なども含まれていることも予想されます。あくまでも補助的な機能としてお使い下さい。

(4)ブロック指定による分かりやすい引用

レスポンスを書く場合、人の書き込みを引用したい場合があります。WERでは、ブロック指定により引用したい行を選択し、それをエディタに取り込むことができます。

連載・障害者とWindows95

Windows95の説明会に参加して

肢体障害・障害者支援施設・利用者

この連載は、パソコンなどに関心がない方には申しわけありませんが、これからの障害者の社会参加、社会的ニーズに対応するために連載させていただきます。

11月18日に七尾市商工会議所に行われた石川コンピュータ・センター主催のWindows95の説明会、デモンストレーションに行ってきました。

Windows95を利用するパソコンのCPUはもちろん486、ハードディスクも100M(メガバイト)以上、メモリも8M以上必要です。欲をいえば16Mぐらいあれば動きは抜群だと思いますが、あなたの予算と相談してください。

インストール(パソコンにソフトを、入れて動くようにすること)はCD-ROMがあれば、CD-ROM版を購入した方が楽にできると思います。フロッピーですと、100Mということは、インストールにかかる時間を想像してみてください。

Windows95は、今までのようにMS-DOSによる設定がほとんど自動化されて行われます。Autoexec.BatやConfig.sysの書き換えが必要なくなります。

起動したいアプリケーションは、スタートボタンから簡単にみつけることができます。

私が一番希望していたアプリケーションの切り替えが楽になりました。私はいつも原稿を打つときは、ワープロソフトを使っていますが、難しい漢字を調べるときに漢和辞典のソフトに切り替えを行うのに本当に不便を感じていました。

一太郎から辞典ソフトに切り替えますのに、何回もアイコンを開いていました。ところがWindows95では、起動中のアプリケーションはすべてタックスバーにアイコン表示され、それをマウスでクリックすることによって一瞬に行われます。これは私にとって本当にうれしい機能です。

次ぎに、皆さんも経験があると思いますが、パソコンに新しい周辺機器(プリンター、CD-ROMなど)を購入したときに、いちいち設定しなければいけませんでした。Windows95の場合は周辺機器が接続されると次回に起動(パソコンの電源を入れること)させますと、自動的に設定してくれます。

私も11月23日のWindows95発売のテレビニュースを見ていて、Windows95の異常な人気に驚きました。今までのパソコンにはなかった便利さがこの人気の秘密でしょう。この文章を書いている時点では、私はまだ注文先よりWindows95が手元に届いていませんので、大まかなことしか書けませんが、体験をしてから次号よりいろいろな便利な機能が、障害者にとって使いやすいのか、どうかを紹介したいと思います。

みんなの広場

介護について

地域住民・施設理学療法士

皆さん、はじめまして、K.Iというものであります。「介護について」の原稿を依頼されたのが、8月？だったかな。年を越して今やっとペンを取っています。依頼されたとき、直接介護に携わっていない私は何を書いて良いやらと思案しました。

ところが、申し遅れましたが、私は身体障害者更生援護施設「青山彩光苑」というところで理学療法士をしています。『理学療法士』って何物か分かりますか？リハビリテーションに関わる一員でありまして、何らかの原因で障害を持った人を、社会復帰もしくは家庭復帰させるべく身体の機能回復を促す仕事をしています。なかなか自分らしいというか納得のいく仕事ができないでいます。

と、前置きはこれくらいにして、介護以外の題材も見つからず少し介護について書いてみたいと思います。

最近、三浦綾子さんの本を読みまして、その中にちょうど介護ことが書かれていましたのでここにあげたいと思います。

『介護とは特別に何かをしなくても言葉だけで、かなり介護の働きをしていることに気づいた。』『深い心の底から出る愛の言葉、温かい言葉、それは例えば「お休みなさい」の一言であっても、その言葉が温かさに全身がときほぐされていくような安らぎを与えられる』なるほどな、と思いました。

私は直接、介護という仕事は行っていませんが関係の深い仕事ごとをしています。青山彩光苑にお世話になる前は、総合病院で働いていました。そこでは患者さんに対する言葉かけ一つで患者さんがより一層リハビリを頑張ろうとしてくれたし、言葉の大切さを学ばせていただきました。

私は介護技術も大切だと思いますが、介護技術よりも心の問題が大切だと思います。何か偉そうなことをいっていますが、これは私の問題でもありまして私自身心がけていきたいと思います。では、このへんで……。

私と音楽

地域住民・肢体障害

私は交通事故による頭部外傷のため長期入院を強いられ、現在も後遺症で以前とは180度違う生活を送っています。事故直後は頭のためもあり、起きてテレビを見ることもできませんでした。

しかし、入院中は暇をもてあまし、周りは病気による高齢の患者さんばかりです。そんなとき、手にしたのが友人がお見舞いにくれた一本の音楽を編集したテープでした。それからは好きなものは何度も繰り返し聞いたり、また新しく作ったりと、音楽にのめり込んでいきました。いつからか、音楽は私にとって単なる気晴らしを越え、なくてはならないもの、支えとなっていったのです。

私は音楽に救われたのかも知れません。このことを人に話すときは「私は音楽の力を信じています」というふうに言います。これが、すべてを言い尽くしていると思うからです。

我ら仲間たち

金沢ベストブラザーズ

地域住民・肢体障害

去年の10月頃県内で放送された、テレビ番組「おまかせ山田商会」を見た人は知っているかも知れません。私が入っている電動車いすサッカーチームが「金沢ベストブラザーズ」といいます。電動車いすサッカーは簡単にいえば、バスケットボールのコートで行う電動車いすで大きめのサッカーボールを使ってするサッカーです。私はもともとサッカーは好きでしたが、筋ジストロフィーという病気のためにサッカーはおろか、どんなに軽いスポーツもできない体になってしまいました。それで、小学校5年生ぐらいから最近まであらゆるスポーツはやっていませんでした。もともとスポーツはやりたかったので非常に残念でした。

一昨年テレビで電動車いすサッカーのことが放送されました。自分は放送は見ていませんが家族の話を聞いてやってみたいなと思っていましたが、きっかけがありませんでした。ところがその番組に出ていた人と連絡をつけて話を聞くことができました。その後、しばらくは行動は何もしませんでした。

ところが、大分たってからいきなり「おまかせ山田商会」を作っているテレビ東京の関係の人から電話がありました。真相は先の連絡をして話をした人が知らないうちに自分のことを名簿に石川県チームとして登録していたからでした。

テレビ東京の人は一番新しい電動車いすチームを取材したかったらしく、偶然石川県チーム(自分)が取材対象になったようです。チームができている必要があったので、ハートサイドネットワークの会長のTさんに相談したところ、医王病院でやりたい人がいるということで急遽(きゅうきょ)チーム結成になりました。本当は順序が反対の方がいいですね。ともかく、取材を受けおまけにチーム名までもらいました。

去年は取材の時も含めて5回の練習を行いました。わりとうまくなったと思いますが、現在シーズンオフなので今年はどうでしょうか。

これからの原稿募集テーマについて

- ・私とパソコン (あなたとパソコンの出会い、利用方法。Windows95の体験談、このように工夫しています。こんなソフトが便利など。情報を大募集しています。)
- ・私の介護体験 (家族、施設での介護、行事、イベント等の介護体験を募集します。)
- ・住宅改造体験 最近のニュースでは「バリア・フリー」(障害物をなくす)という言葉が盛んに使われていますが、自分の障害に合わせてどのように自宅を工夫していますか?教えてください。

編集後記

読者の皆様、お変わりございませんか？さて、冬号の発行が編集委員の都合で春号と同時発行となりましたことをお詫びします。

というのは、Windows95を購入していろいろとパソコンをいじっていたら、ソフトを消してしまって組み込むのに時間をとられ、「HSK季刊わたぼうし」の編集ができなくなったのです。申しわけありません。

福祉情勢も来年秋の介護保険(現在は老人のみ計画中)の導入、施設福祉から在宅福祉への推進と大きく変わりつつありますが、読者の皆様にも変化が出ていませんか。「HSK季刊わたぼうし」でもこのような課題への皆様の考えをお待ちしております。

(Z.O)

NO.41のテーマは障害者の住宅